



認知症にやさしい小さな図書館

「よりよい小さな図書館を目指します」と松岡推進員



一昔前までは認知症についての書籍と言えば、医療系のものしかありませんでした。最近では認知症本人や介護家族の皆さんが出版した本もたくさん出回っていて、認知症の人を理解する上でとても役立っています。

「カフェ・オレンジ」の一角に「認知症にやさしい小さな図書館」ができて数か月になりました。少しずつですが蔵書も増えていて、新聞のスクラップブックも置いています。認知症の情報を求めている人には是非教えたい「情報のオアシス」です。中心になって整備を進めている松岡推進員に話を聴きました。

【中村】

私は平成29年12月より認知症地域支援推進員として勤務しており、「認知症にやさしい小さな図書館」を担当しています。

「小さな図書館」は、認知症支援・介護予防センターと同じ、アシスト5階の「カフェ・オレンジ」の一角にあり、年末年始、お盆のお休み日以外、どなたでも利用できるようになっています。

認知症に関する書籍は「認知症のケア」・「認知症予防」・「認知症本人からの発信」・「介護記録」等多岐にわたっており、その書籍数は200冊を超え、現在も毎月数冊ずつ追加しながらより充実したものを目指しています。

一人でも多くの方に認知症について関心を持ち、手に取っていただけるようポップを作り、書籍の紹介を行っています。読んだ冊数はまだ少ないのですが、どのカテゴリーの書籍を読んでも新しい発見があり、認知症に関する知識や理解も少しずつ進んできたように思います。

まちの図書館のように貸し出しは行っていませんが、「ちょっと読んでみようかな」と気軽に本を手にとっていただける空間として、また、認知症の方やそのご家族が安心して過ごせる「居場所」の一つになれるよう、これからもよりよい「小さな図書館」を目指していこうと思っています。

【松岡】



小さな図書館コーナー
今月おすすめの1冊



認知症になっても人生は終わらない
著 認知症の私たち
認知症を知るために医学的な本を手に取り理解することも大事ですが、認知症と診断された本人の「思い」を知ることはもっと大切なことだと思います。

巻頭の認知症本人による直筆のメッセージには、一人ひとりの強い思いが込められています。その気持ちに寄り添い、共に生きることの意味を考えさせられる一冊です。

【松岡】

こんにちは！ 地域支援コーディネーターです⑥

地域の見守りや支えあいを強化する目的で、各区に「地域支援コーディネーター」が配置されています。お気軽に声を掛けて下さい。今月は小倉南区担当を紹介します。



やまぐちあけみ
山口朱美

ながまつやすたか
永松泰貴

やまざきとしこ
山崎戸旨子

(敬称略)

新米のおいしい季節になりました。校区では敬老会、文化祭とイベントが続きますね。小倉南区のコーディネーター3人は地域の皆様の活動がますます充実するように、きめ細かな支援を心がけています。お気軽にご相談下さい。



ゆのみゆ

「自分の始末は自分でつける」というのが日本人に伝わる美学だという。「いい大人は助けてなんて言わない」という刷り込みが、共生社会の構築を阻害しているとは、「NPO抱僕」理事長の奥田知志氏の言葉。認知症の人とご家族もなかなか「助けて」と言えずにいる。「NPO老いを支える北九州家族の会」の顧問で、「認知症・草の根ネットワーク」前代表理事の高田芳信氏は、かつて妻の

病をオープンにしたら、病院で声を掛けてくれる人が増え、あついても行方不明になる前に見つけてもらえた。年度末の町内の会合で「よろしくお願ひします」と事情を話したら、みんなが見守りに協力してくれたと話してください。若年性認知症本人の山田真由美氏は、「スパーの買い物での困り事」を話したら、レジでの支払いや商品の袋詰めを助けてもらえるようになりとても楽になったのでこのことを伝えたいと講演活動を続けている。助けを求めている人の背中を押す者でありたい。

【な】



今月のカフェ・オレンジ

毎月25日にカフェ・マスターさんが情報交換のために集う「カフェ・マスタートミーティング」。8月は難病支援カフェ「なんくるかふえ」との交流会でした。6月に続く2回目の開催です。



「カフェ・オレンジ」の『あきらめないで』という想いと、「なんくるかふえ」の『くじけずに正しい道を歩むべく努力をすれば、いつか良い日がくる』という想いはどこかつながります。同じアシスト1の建物内6階にある「北九州市難病相談支援センター」の職員さんによる難病やカフェの説明の後、温かい交流の時間を楽しみました。参加の皆さんはとても打ち解けて、おしゃべりが弾みました。

【野澤】